

第1号議案

令和4年度 事業計画（案）

<はじめに>

令和4年2月に公表された内閣府の月例報告によると、「景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、感染拡大による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」と先行き不透明な厳しい状況とされています。

和装業界は、市場全体の縮小傾向が続く中、新型コロナウイルス感染症拡大による深刻な打撃を受け、特に産地等に非常に厳しい状況が続いてきました。コロナ禍への対応でリモートでの商談や商品の動画配信等、デジタルを活用した活動を進められてきましたが、昨年の秋以降、行動制限の緩和や消費マインドが徐々に回復し、通常営業が再開され、業界の動きが活発化するなど改善の兆しに期待が寄せられていますが、早期の需要喚起は見通すことが難しい状況が続いています。

和装業界のこの厳しい現状に対しては、需要の回復に向けた取組を進めることが重要であり、きものの着用シーンの拡大、若年層を対象としたきものを着始めるきっかけとなるイベントやライフスタイルの提案など消費拡大、市場の裾野を広げるための事業の実施に努めていきます。

また、長期的な視点からは、将来の職人育成やきものユーザーの確保に繋がる取組が必要であり、引き続き小学校から大学までの一貫した取組として、きものの着付け体験や小中学校での職人の技の体験等の充実に努めていきます。

和装業界の商慣行の改善については、改善運動を推進していく「きもの安全・安心推進会議」の取組への協力、支援を行い、コロナ禍での深刻な業界の状況を回復するために、長期的に持続可能な産業構造への転換に繋がるように進め、和装産業の産地振興・市場振興を共に目指していきます。

「きもの文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けては、文化庁地域文化創生本部との連携を深めるとともに、各種イベント等への参画、協賛等によるきもの文化の積極的な発信に努めていきます。

国、京都府、京都市及び関係団体等との連携、協力を得て、きもの日をはじめ可能な機会を通じて、時宜を逸することなく和装の普及啓発に取り組んでいきます。

<事業計画>

1 収入の確保 (34,210千円) *左記の金額は収入

収入の主なものは、基金等の資産運用益(14,840千円)、修学旅行・町家賃貸等事業収益(6,912千円)、京都府・京都市補助金等(12,210千円)となっています。

資産運用については、引き続き「安全かつ有利」を基本として市場の動向を注視してまいります。なお、現在保有している債券の中で、本年度中に償還を迎えるものはありません。

◇ 資産の内訳 (単位：千円)

区分	額面	債券の種類				定期預金
		国債	劣後債	仕組み債	ユーロ円債	
基本財産	22,000	20,000	—	—	—	2,000
運用財産	1,048,000	510,000	100,000	100,000	200,000	138,000
合計額	1,070,000	530,000	100,000	100,000	200,000	140,000

◇ 債券の償還時期 (単位：千円)

債券の名称	額面	購入時期	償還時期	備考
第120回20年国債	30,000	2011年11月	2030年6月	
第11回30年国債	300,000	2010年8月	2033年6月	
第152回20年国債	100,000	2015年9月	2035年3月	
政府保証第219回日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000	2014年5月	2034年5月	
ロイズバンク・ピーエルシー(ユーロ円債)	200,000	2012年2月	2024年2月	
第7回三菱UFJG任意償還条項付無担保永久社債	100,000	2017年11月	-	2028年7月以降早期償還あり
シングルネーム・クレジットリンク債	100,000	2018年12月	2029年1月	
合計額	930,000			

2 事業の執行

和装関連産業の振興のため、和装の普及啓発等の事業を実施します。

(1) 和装普及・啓発事業

ア 和装普及 (2,705千円)

(ア) 「きもの修学旅行」の実施

京都を訪れる中学校、高等学校の修学旅行生を対象に、きものの着付け体験を提供し、着ることの「楽しさ」「おしゃれ感」などを体感してもらい、将来のきものユーザーに繋げていきます。

(イ) きもの・ゆかたレンタル事業

関連団体や大学・専門学校、行政、公的機関等が開催するイベントに、きものやゆかたを貸し出し、きもの文化の普及を図ります。

(ウ) 「室町きもの教室」の開催

和装学院振興協議会の協力を得て、「きものステーション・京都」との連携による「室町きもの教室」を開講します。

(エ) きもの相談事業

無料で専門家に気軽に相談できる窓口として、京都染色補正工業協同組合及び京都府和裁協同組合の協力を得て、「きものステーション・京都」と連携して「きものシミ抜き、仕立て直し相談」、和装学院振興協議会の協力を得て「きものTPO／コーディネート相談」を開設します。

イ 和装着用促進 (3,805 千円)

(ア) 「着物でまちあるき」の実施

若者にきものに袖を通してもらい、きものが持つ魅力を体感してもらう事業を実施します。正絹のきものを着ていただけるプランを設け、京都の職人が作った本物のきものも体感していただきます。

(イ) 大学生の着用促進

大学の学生団体が実施するきものやゆかたの着付け教室やきもの文化の普及の取組に協力、支援をしていきます。

ウ 和装啓発「PR」事業 (9,411 千円)

(ア) 経済センター和装勤務

きものが似合う一年の節目のときに、京都経済活性化の拠点である京都経済センター入居団体の職員にきもの姿で勤務してもらい、和装業界の中心地から「きもの文化」を発信します。

(イ) 関連団体・関連事業との連携

和装関連団体や「伝統産業の日」関連事業等と連携し、きもの着用シーンを提供するための事業、きものを着始めるきっかけとなる事業など、和装産業の振興に繋がる事業に積極的に取り組んでいきます。

(2) 和装教育支援事業

ア 各教育段階での着付け教室 (5,215 千円)

高等学校及び小学校の学校教育におけるきもの着付け教室を開催し、きもの着用を繰り返し体験することで、きもの文化の理解を深めます。

なお、教室開催校の拡大、新大学生等対象者の拡大に取り組んでいきます。

イ 和装伝統技術の継承 (3,101 千円)

京都市の「京の匠ふれあい事業」と連携し、伝統産業製品（京友禅）を制作する職人を小・中学校に派遣して制作実習・制作実演を実施し、職人の技の魅力を伝えることにより、将来の担い手へ繋げていきます。

また、きものの製作や京友禅が体験できる啓発グッズを作成・配付し、きものや京友禅を知ってもらう、興味を持ってもらうきっかけを提供します。

(3) 企画・広報

ア ユネスコ無形文化遺産登録推進事業（1,500千円）

日本のこころや文化の象徴である「きもの文化」をユネスコ無形文化遺産に登録を推進するため、行政や経済団体等が主催するイベントへのブース出展やロゴマーク・啓発グッズを活用した広範な周知に取り組み、認知度向上や機運醸成に取り組みます。

また、9団体で構成する「和装（きもの文化）ユネスコ登録推進・連絡協議会」の開催、賛同団体との連携した全国的な周知、文化庁をはじめとする関係機関との意見交換等に努めます。

イ 情報発信・連携（355千円）

財団のホームページを活用し、和装に関する基礎知識や情報を発信するとともに、当財団が実施する事業を周知していきます。

また、和装産業の振興に資する事業について、後援等の依頼があった場合、応援していきます。

(4) 会議の開催

ア 評議員会

定時評議員会を6月に開催します。

イ 理事会

決算理事会を6月に、予算理事会を3月に、また、必要に応じて臨時理事会を開催します。

ウ 正副理事長会議

理事会の開催前のほか、必要に応じて適宜開催します。